

# ワークシート 「ふくしまフムフム」

年 組 番号( ) 名前



## フタバスズキリュウ

# 首長竜 高校生が化石発見

【メモ】フタバスズキリュウの全身復元骨格は、いわき市の「ぼるる」や会津若松市の県立博物館で見学できます。

いわき市のがっこうで1968年、当時の高校2年生の鈴木直さんが化石の一部を見つけました。その後、研究者たちによる調査で多くの骨の化石が発見されました。この骨は爬虫類の首長竜のもので、体の長さ約6・5メートル。約8500万年前の白亜紀後期の海に生きていたと分かりました。当時の日本では大型爬虫類の化石は珍しく、注目されました。化石が見つかった双葉層群という地層の名前から、長い名前から、長い間「フタバスズキリュウ」と呼ばれていました。2006年に新種だと確認され、「フタバサウルス・スズキ」という学名が付きました。海外からも注目され、今も研究が続いている。

▲10月30日 福島民友新聞掲載

きじをよんでおもったこと、みんなとはなしてかんじたことをかこう。(120字くらい)